

第75回 (令和7年度)

“社会を明るくする運動” 千葉県作文コンテスト



チーバくん  
千葉県マスコットキャラクター  
千葉県許諾 第A441-21号

# 入賞作文集

犯罪や非行を防止し  
立ち直りを支える地域のチカラ



“社会を明るくする運動” 千葉県推進委員会

## はしがき

法務省が主唱する“社会を明るくする運動”へ犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラへは、すべての国民が犯罪や非行の防止及び犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。本運動は、毎年七月を強調月間として全国で行われており、本年で七十五回目を迎えました。

“社会を明るくする運動”作文コンテストは、本運動の一環として、未来を担う全国の中小学生に、日々の家庭生活や学校生活をもとにした作文を書くことを通じて、犯罪や非行のない社会づくりなどについて考えていただく取組です。千葉県推進委員会も平成七年度（第四十五回“社会を明るくする運動”）から本コンテストに参加しており、今回で三十一回目を迎えます。

今回の作文コンテストでは、千葉県内から中小学生の部七、四一一点、中学生的部八、九三九点、合計一六三五〇点の応募があり、各地区推進委員会の選考を経て、千葉県推進委員会に推薦された作品の中から、小学生の部一〇点、中学生の部一〇点、合計二〇点の入賞作品が選ばされました。また、今年度も特別賞として「千葉県教育委員会教育長賞」、奨励賞として「千葉県小学校長会長賞」及び「千葉県中学校長会長賞」を設けて、力作を送つていただいたことにお応えしております。

本作文集は、“社会を明るくする運動”千葉県作文コンテストの入賞作品を収録したものです。一人でも多くの方に読んでいただきことで、青少年の健全育成・非行防止に寄与するとともに、“社会を明るくする運動”に対する一層の御理解・御協力をいただければ幸いです。

終わりに、この作文コンテストの実施に当たり、御後援をいただきました千葉県教育委員会、千葉県小学校長会、千葉県中学校長会、千葉市教育委員会、千葉市小学校長会、千葉市中学校長会、公益財団法人千葉県私学教育振興財団、千葉県PTA連絡協議会、千葉県教育研究会国語研究部会、株式会社千葉日報社、千葉テレビ放送株式会社、千葉県更生保護助成協会、千葉県保護司会連合会、千葉県更生保護女性連盟、千葉県BBS連盟、そして実施にあたり多大な御尽力をいただきました県内の教育委員会や学校関係者、地区推進委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

令和七年十一月

“社会を明るくする運動” 千葉県推進委員会

目 次

はしがき

審査講評

入賞作品

**小学生の部**

千葉県推進委員会委員長賞	(県知事賞)	千葉市立弁天小学校	六年	一 條	舞
千葉県推進委員会委員長賞	(県知事賞)	南房総市立白浜小学校	六年	佐久間	冬子
千葉県推進委員会委員長賞	(県知事賞)	九十九里町立片貝小学校	六年	川崎	心楓
千葉県教育委員会教育長賞	(特別賞)	栄町立布鎌小学校	六年	大久保	花音
千葉県教育委員会教育長賞	(特別賞)	睦沢町立睦沢小学校	五年	中 村	文 香
千葉県更生保護助成協会理事長賞	ばくらをまもる緑のヒーローたち	大網白里市立季美の森小学校	三年	能 势	陽 羽
千葉県更生保護女性連盟会長賞	温かな気持ちのサイクル	大多喜町立大多喜小学校	六年	岩 瀬	美 咲
千葉県BBS連盟会長賞	優しさが繋がる社会へ	船橋市立塚田南小学校	六年	徳 岡	大 晟
千葉保護観察所長賞	「未来の自分のために今できること」	市原市立清水谷小学校	六年	林 藤	永 来
千葉県小学校長会長賞(奨励賞)	あいさつは社会を変えると信じて	八千代市立西高津小学校	五年	洸 乃 介	

24 22 20 18 16 14 12 10 8 6

4 1

## 中学生の部

千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞） やり直す勇気を支える社会へ 見えない壁の向こうへ	松戸市立第一中学校 南房総市立富山中学校	三年	汪 鑫玥
千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞） 人は変わる事ができるのか	睦沢町立睦沢中学校	三年	本明天陽
千葉県教育委員会教育長賞（特別賞） 人の繋がり	芝山町立芝山中学校	三年	枚森大沖
千葉県保護司会連合会長賞 居場所と温かな言葉	浦安市立美浜中学校	一年	井口瑠菜
千葉県更生保護助成協会理事長賞 社会を明るくする運動	君津市立君津中学校	三年	山田陸斗
千葉県更生保護女性連盟会長賞 私たちがつくる社会	千葉市立大椎中学校	三年	幕田龍生
千葉県BBS連盟会長賞 あなたも今日から、光を灯す人に	成田市立成田中学校	一年	市原里穂
千葉保護観察所長賞 見て見ぬふりからの脱出	香取市立佐原第五中学校	一年	藤野伊織
千葉県中学校長会長賞（奨励賞） 支え合いと未来	多古町立多古中学校	三年	金子柊詠
		半田陽梨	
		46 44 42 40 38 36	34 32 30 28

※作文執筆者の御意向により作文の掲載は控えさせていただきます

入選・佳作

# 審査講評

審査委員長

千葉県教育研究会国語教育部会長

千葉市立草野中学校長 柴崎淳

第七十五回目の作文コンテストには、小学校は三〇六校、七、四一一点、中学校は二二一校、八、九三九点、合計一六、三五〇点の応募がありました。応募していただきました児童・生徒の皆さん、ご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

今回も、「犯罪や非行のない明るい社会づくり」や「犯罪や非行をした人の立ち直り」という『社会を明るくする運動』の趣旨を踏まえて、日常生活の中での体験や気づきをもとに、真摯に向き合った素晴らしい作品が多数寄せられました。

特に印象的だったのは、多くの皆さんのが「つながり」や「居場所」の大切さをテーマに選んでいたことです。現代社会において、家族や地域社会とのつながり、人と人の温かい結びつきこそが、立ち直りを支え、犯罪や非行を防ぐ最も強力な力であるということを改めて考える場所こそが眞の居場所であると深く考察している点に、

未来を担う皆さんのが豊かな感性と確かな思考力に感銘を受けました。

今回の入賞作品は、自身の体験や経験を土台にして考えを深め、感情の変化や行動を通じて、「明るい社会づくり」の重要性を訴えている作品が数多くありました。調べたりしたことや見聞きしたことでも、自分なりの考えをもつて書くことはできますが、やはり体験や経験から生み出された言葉や表現からは、書き手の強い思いが感じられ、読み手を引き付け、心に響くものがありました。ご応募いただいた全ての皆さんのが、一つ一つがよりよい社会を目指すためのメッセージです。今回のコンテストへの参加が、明るい社会をつくる主体は自分自身であるという意識を育む大切なきっかけとなることを願っています。そして、皆さんのメッセージを、たくさんの方々に読んでいただき、皆さんのが住むこの地域・社会がよりいつそう明るいものになるように願っております。

# 小学生の部作品





## 小さな夢の国

千葉市立弁天小学校 六年 一 條 舞

この課題に取り組む時に、社会を明るくする運動は、何か大掛かりな事をしなければいけないのかと思つていました。そんな時、小さな事だけどとても気持ちが明るくなる事が起きました。お母さんと電車に乗つていた時、老夫婦が電車に乗つってきたので、一人で

「どうぞ。」

と席を譲りました。その後するとお一人は

「ありがとうございます。」

と、何度も嬉しそうに伝えて座つてくれました。座つた後も嬉しそうに夫婦でお話をしていく、私達が電車を降りる時にも再度、声をかけてくれました。電車は、思つたより人が多くて私は少し照れくさかったけどとても嬉しくて気持ちが明るくなりました。社会を明るくする運動は、このような小さな事がたくさん集まれば良いので

はないかとふつと思つました。それと同時に以前、同じように電車で席を譲つた時に何度も  
「どうんなさいね。」

と言われ少し気まずかつた事を思い出しました。その時と何が違う、どうして感じ方が違うのか気になりました。その答えは、大好きなディズニーシーに行つた時に分かりました。夢の国と言われるディズニーリゾートは、私の大好きな場所です。

前期、頑張つたご褒美に、夏休みにディズニーシーに連れて行つてもらいました。そこで前からどうしても欲しかった物がありショッピングで探してみたところ、見当たらぬのでキャストさんに声をかけて調べてもらいましたが、やっぱり在庫はありませんでした。普通ならとても残念な気持ちになるのですが、

「また来てください」というメッセージだと思します。今日は一日楽しんでくださいね。」

と笑顔でお話してくれて、反対にまたぐ褒美に連れてきてもらうように頑張ろうとすらぐるポジティブな気持ちになりました。

このように、考え方や言い方を少し変えるだけで感じ方が大きく変わる事に気づきました。相手を思いやり行動、発言すること、そして笑顔でいることは社会を明るくするために、絶対に必要なことなんだと思いました。

ディズニーリゾートには、知らない人同士でも自然に笑顔になるパレードやアトラクションがあります。でも待ち時間が長かつたり、人が多かつたり、よく考えればマイナスなこともあります。でも、それを感じさせないキャストさんの対応や工夫、ゲストを楽しませる仕掛けなどが夢の国を作つてじるのだと改めて思いました。

そして、電車での「ありがと」、「めんない」との感じ方の違いは、ポジティブな発言なのか、そうでもないのかの違いが大きく影響しているのだと気づきました。本当は違うではなく同じ気持ちでしててくれたのだと思いま

すが、小さな事でも感じ方は大きく変わってしまうのだ勉強になりました。

私も道を譲つてもらつたり、エレベーターに乗る時など「すみません」と言つてじるなどがありますが、これからはできるだけ「ありがとうございます」と伝えていこうと思います。

一人一人が自分や関わる人達に対してポジティブに考えたり、発言することが明るい社会を作る一番の近道だと思いました。また、小さな夢の国がたくさんできればみんながもっと住みやすくて幸せな世の中になると思します。まずは、私にできる事から夏休み明け、自分のクラスが小さな夢の国になるように明るく、前向きに毎日を過ごしていきたいです。

そして、クラスのみんなにポジティブが伝染していくたら嬉しいです。



# つながりがつくる明るい社会

南房総市立白浜小学校 六年

佐久間 とうこ

私のお母さんは、毎日学校まで車でお迎えに来てくれます。車に乗るところ、「今日ひつたつた?」と聞いてきます。私はいつも、「今日も普通だよ。」「いつもと変わらないよ。」と答えてします。正直、なんで毎日同じことを聞いてくるのかな、ちょっとしつこいなと思うこともあります。けれどもある日お母さんが、「毎日ひつたつた?」と聞くのは、ただ出来事を知りたいからじゃなくて、あなたの気持ちを聞きたいからなんですよ。」

と教えてくれました。そして、「話すことは心の整理にもなるし、ちょっとした悩みも軽くなるんだよ。」と言いました。その言葉を聞いて、私はなるほどと思いました。

家でも「ハイコーケーション」の大切さを感じることができます。祖父母とは毎日一緒にご飯を食べますが、そのときに昔の話をたくさんしてくれます。祖父が若い頃リビアという国に仕事に行っていた時に毎日カレーを食べていた話、祖母が子供の時学校が終わるとすぐに天草を海に取りに行っていたことなどです。私が知らない時代の話を聞くと、驚きもあるし、祖父母のことをもっと知ることができます。

近くに住む祖母のお姉さんや、親戚、そして近所のおじいちゃんおばあちゃんも、私のことをよく気にかけてくれます。「学校は楽しい?」「元気にしてる?」「あなたに小さかったのにもうこんなに背が伸びて。」と声をかけてくれるだけで、見守つてもうしてくる安心感があります。こうやって家族や地域の人と話すと、心があた

たかくなります。

私はニュースで犯罪や、非行をしてしまった人の生き立ちを知ることができます。小さいころに家族と話すことが少なかつたり、寂しい思いをしたりした人が多いと聞いて、「心が痛みました。もしその人たちが小さいときに、誰かが話を聞いてくれたり、気にかけてくれる人がいたら、違った未来になつたのではないか」と思います。

私自身も、話をすると気持ちがスッキリする経験を何度もしています。学校で友達との間にちょっととしたトラブルがあつて落ち込んで帰つた日も、お母さんに車の中で話すと気持ちが軽くなりました。話することで考えが整理されるし、お母さんが「次はこうしてみたら?」とアドバイスをしてくるので前向きになれます。やつぱり、コミュニケーションつてすごく大切だと感じます。

家族が毎日「どうだった?」と声をかけあい友達が「大丈夫?」と寄りそい、地域の人達が「元気?」と気をかけてくれる。そんなつながりが広がれば、悩みを一人で抱え込むことも減るし、犯罪や非行をする人も少なくなるのではないかと私は思います。

社会を明るくするのは、特別なことではなく、日々の

ちょっとした会話や「気づかい」から始まるのだと思ひます。

私もこれからは、お母さんに「今日はね…」と聞かれたら「今日はね…」とできるだけいろんなことを話して共有したいなと思います。そして、友達や家族が困つているときには、「話さうよ。」と声をかけられる人になりたいです。

みんながみんなを気にかけ、つながりを大切にできる家族、学校、地域になれば、きっと犯罪や非行のない、明るい社会になると思ひます。





# 小さな気づきが未来を変える

九十九里町立片貝小学校 六年

川崎心楓

いつもと変わらない学校の帰り道。歩きなれた道。見慣れた景色。だけでもその日は、ある場面が私の心に強く残りました。

学校から家に帰る歩道には、小さなベンチが何個も並んでいます。休みたくなるとそこで座る事もあるいつも の場所です。そのうちの一つのベンチで、高校生の人�타バコを吸っていました。けむりがふわっと広がり、においが鼻に残りました。「通りたくないな。」と思ひながらすれちがいました。心がざわざわして、立ち止まりたくなるような、でもこわくて声をかけることもできず、そのまま歩き続けました。

そのすぐ先の歩道では、空き缶やシン、おかしの袋がいくつも落ちていました。時にはお弁当があること落ちていることもありました。周りには「ゴミ箱がなく「この

まま」といはずつとあるのかな。」と思うと、悲しい気持ちになりました。いつも通る道なのに、その日は少しだけ汚れて見えました。でも、それはずっと前からあったのかもしれません。ベンチでタバコを吸っていた人も、ゴミを捨てた人も、「ちょっとくらうならいいだろ。」と思つたのかもしれません。でもそのちょっとが周りの人をいやな気持ちにさせたり、ルールを破つてもいいと思わせたりするきっかけになる事もあると思います。

そのとき私は、「非行ってニュースの中だけではなく、私たちのすぐそばにあるのかもしれない。」と思いまし た。テレビで見る大きな事件もこわいけれど、田の前にある小さなマナーのゆるみが非行の始まりになることもあります。見て見ぬふりをしているだけでは、何も変わらないのだと気がつきました。

それから私は、歩道に落ちていた空き缶を拾つて、家の近くにある「三箱に捨てました。

ほんの少しのことだつたけれど、「私にもできる事があつた。」と思えた瞬間でした。

もし、その行動を見た誰かが「私もやつてみよう。」と思つてくれたら、それはもっと大きな力になると思います。そうやって広がつていく行動こそが、社会を明るくするものだと信じています。

ベンチでタバコを吸つていた人に声をかける勇気はまだりません。でも、自分がルールを守ること、そして目をそらさずに見ることはできます。「自分一人がやつても変わらない。」と思うのではなく、「まずは自分から行動してみよう。」と思うこと。それが大切なのだと感じました。非行や犯罪を防ぐのは特別な人だけの仕事ではありません。私たち一人一人が、気づいたことにちゃんと向き合つことが大切なのだと思います。

あの日の帰り道で見えたのは、何気ない日常の景色だつたけれど、大切な社会の姿だつたのかもしれません。そしてその中で、「私にもできることがある。」と気づけたことが、私の心を少しだけ強くしてくれました。

これからも私は、優しい心と真っすぐな心をもつて、明るい社会をつくる一歩を歩みだしていきたいです。





# 必要のない人なんていない世界

栄町立布鎌小学校 六年

おおくぼ  
花音

すると祖父は、

皆さんは「少年院」を知っていますか。例えば、少年院とは、家庭環境が悪く、物をぬすんでしまったり、人を殺してしまったりという事件を犯してしまった子供が入る場所のことを言います。私の祖父は「篤志面接員」です。少年院に入っている子供たちに剣道を教えています。

最初に私が聞いた時に思ったのは、「何で悪いことをしたのに教えているのか」でした。なぜかと云うと、「悪いことをした」と言われると、また問題を起こすかもしれない、何かされたらどうしようという良くないイメージがわいてきてしまうからです。私はそこから、何で祖父が篤志面接員になろうと思つたのか気になり、

「何で篤志面接員を始めようと思つたの。」と聞いてみました。

すると祖父は、「少年院に入った子供たちは、両親がりこんをしたり、家族の中がけんかばかりになり、精神的に不安定になります。学校に行かないで悪い友達などと非行に走つてしまつた子供たちが多い。どんなに悪いことをした人でも愛情を持つて支援すれば、必ず立派な人間になつて、社会にこうけんするようになると信じているから篤志面接員になろうと思つた。」

と言つていました。その中でも私が心に残つたのは、「愛情をもつて支援すれば必ず立派な人間になる」という言葉です。この言葉から私は祖父に、愛情を注がれていたかった子供たちをこれからも笑顔にしてほしいし、愛情を注いでほしいと思いました。

でも、何で教えようと思つたのが剣道なのか、という

疑問が私の中できました。それも、祖父に聞いてみることにしました。そうすると祖父は、

「剣道で一番大切なことは、『人間形成』。人間形成とは、相手に勝つことではなく、自分の弱い心に勝つこと。そして、他人を尊敬し、困っている人に親切にする」と、剣道を教えて、心の強い人間になつてもらいたいと思つたから。」

篤志面接員がいなかつたら、少年院の子供たちは、犯した犯罪を反省しないで社会に出てきて、また犯罪を起こす可能性だつてあるかもしません。このように考えると、表から見て必要がないように見える人もいるけど、こうやって、「それがないとどうなるのか」を考えるとやつぱり必要です。

このように、篤志面接員以外でも必要じやないようになつて、それがないといつなるのかを考えて見ていかないと大変だと思つこともあります。

私の周りにも必要のないようになつて、必要な人、裏で私たちを助けてくれている人がたくさんいることがわかりました。だからこそ、世界中のたくさんの生活を支えてくれている人たちに改めて、感謝したいと思いました。

このように、日本だけでなく、世界中にも少年院にいる子供たちのように家庭環境にめぐまれていない人や篤志面接員のように困っている人を助けている人はたくさんいます。

このように、日本だけでなく、世界中にも少年院にいる子供たちのように家庭環境にめぐまれていない人や篤志面接員のように困っている人を助けている人はたくさんいます。



## つながりから始めよう

睦沢町立睦沢小学校 五年

なか  
むら  
ふみ  
か

「社会を明るくする」ためには、人とのつながりが大事だと私は思います。なぜなら、人とのつながりは犯罪を防止することにつながるのではないかと考えるからです。

以前、私の家の前にふだん見かけない不 shin がいたことがあります。その時に道路をはさんで向かいにある散髪屋さんが、仕事中の父に連絡をくれました。そのおかげで警察に相談することができ、警備を強化してもらいました。近所の人は、日中の家に誰もいない時に、見守りをしてくれました。また、私たちも戸締まりなど防犯対策をしっかりと行うようにしました。しかし、そのつながりがなかつたらどうだったでしょうか。私たちに不 shin がいると伝えてくれたでしょうか。つながりがあれば守れるものも、つながりがなければ守れないかもしれません。幸いなことに、何も被害はありませんでしたが、もし何も知らずに過ごしていく、その不 shin が再び家

に来ていたらと思うと、とてもこわいです。だから、近所の人とのつながりが安全な暮らしが守るために大事だと思います。

もう一つ、つながりについて思うことがあります。それは隣に住むおばあさんのことです。その方のご家族から話があり、一人暮らしなので私の母や父に洗濯物を干す時や、外に出た時など、となりの家の様子を確認してもらえないかといふものでした。おばあさんは毎朝、庭で野菜やお花の世話をしているので、もし見かけなかつたらケガや病気など心配な状態になつているかも知れないからです。つながりがあるからこそ、お互いに助け合えることができます。「困った時はお互い様」という関係を築くことが大切だと思います。

私がこの作文を書くときに考えたことは、人と人とのつながりは、最初は一本の糸のように細く見えにくくも

のですが、努力して築いていくことで、太く強いものになっていくということです。だから、町や市は様々な人たちにつながりをもつてもらえるようにいろいろな行事や事業を行っています。私の住んでいる睦沢町では、町に住んでいる高齢者の方々が住み慣れた地域で元気に自立した生活を続けられるように介護予防として3Cプログラムといふものを行っています。私の祖母もお世話になつていて、定期的に様々な立場の方が来て、どんなことができるかなど祖母と一緒に考えてもらっています。祖父が亡くなり、自立で長く歩けなくなつた祖母は元気がなくなつてしまい、心配でした。しかし、今は近所の方だけではなく、役場の方など、地域全体でのつながりもできました。祖母も元の笑顔が増え、プログラムに参加した時のことをおれしそうに話してくれるようになります。

また、人と人とのつながりがあり、たがいに支え合える社会であつたなら、犯罪を犯さうという気持ちも、起りにくくなつていくのではないかと思います。

これらのことから犯罪の被害を最小限にするには、人とのつながりが大切だと強く思います。そして、犯罪を起こす前に踏みとどまれるかどうかは安心できる人の存在や居場所があるかどうかだと思います。犯罪を未

然に防止することも大切です。しかし、それ以上に犯罪を起こす気持ちにさせない、犯罪を起こす必要のない、誰にとつても居心地のよい社会を作つていくことが大切なのではないでしょうか。

私たちの社会は何もせずに明るくなるものではなく、私たち一人ひとりの行動や考え方で明るくしていくものだと思います。また、人と人とのつながりは、親子のつながりのようにもともとあるものだけではなく、いろいろな人と関わることで作つていくものではないかと思います。

わたしは将来、孤独に悩む人がいない「人とのつながり」にあふれた世界になつてほしいと思います。そのために、今、私は、祖母の知人や近所の方と話をしたり、町が行つている行事や事業に積極的に参加したりするようになります。そして、年れいをこえていろいろな人とかかわりをもつことで、私自身が前向きに楽しく過ごすことができるこことを実感しています。だからこそ、これからもこのよつなつながりをもてる地域の活動に積極的に参加し、一人でも多くの人とつながりをもつことで、自分や私の周りの人の笑顔を増やし、社会を明るくしていけたらいいなと思います。



## ぼくらをまもる緑のヒーローたち

大網白里市立季美の森小学校 三年 能勢陽羽

「おはようございます。」ぼくの朝は、緑のヒーローたち

のあじせつからはじまります。緑のヒーローたちの  
ショウタイは、緑色のベストを着てぼくたちを守ってくれ  
るボランティアのきんじょにすむおじいさんおばあさ  
んたちです。

緑のヒーローたちは朝が早いです。ぼくがどんなに早く家を出てもからります。ぼくより先におだんぼはどうの前に立ってくれています。ぼくたちがじこにあわないようにおうだんぼどうをわたるときに車をとめてくれます。緑のヒーローたちは、元気をくれます。ぼくがねむいときや学校にいきたくないときにもやさしい顔で大きな声であいさつしてくれます。ヒーローの声を聞くとぼくはエネルギーチャージされて元気になります。

緑のヒーローたちは、時間も教えてくれます。そのお

かげでぼくは、一回もちいさしたこと�이ありません。

緑のヒーローたちは田かたくさんあります。ぼくたちのあんせんを守るために、右や左、前や後ろからくる車をとめてくれます。

緑のヒーローたちは、ぼくの友だちをおぼえてくれています。友だちが先にしつた時には教えてくれます。緑のヒーローたちは、安全だけでなく、ぼくたちのことを心ぱいしてくれます。あつい日には、「しつかりすいぶんとるんだよ。」と囁いてくれ、さむい日には、「かぜひかなじょつにあたたかくするんだよ。」と言つてくれます。

緑のヒーローたちは、雨の日にならじがう色にへんしんします。白や青、ピンクや黒などいろんな色にへんしんします。どんなに強い風や大雨の日にもカッパを

着て立ってくれています。雨がふると車で学校に行く人が多くて、ほとんど歩いている人がいなくてもかなうず立つてしてくれます。

緑のヒーローたちは、夕方にもとつじょうします。夕方の時はヒーローたち全いんがしゅうじゅうして、歩いてまちをパトロールしてくれています。

緑のヒーローたちのなかまには犬もいます。その犬も緑のベストをきています。風の日も雨の日もあつい日もさむい日も毎日いつしょにいます。えさをあげることもできてみんなにん気ものです。

ときどき緑のヒーローたちは、けいさつの人たちと作せん会きをしています。けいさつの人たちときょうりょくしながら、ぼくたちを守ってくれているんだなど思います。

ぼくは、そんな緑のヒーローたちが大好きです。ヒーローたちのおかげで、一人で学校に行く時も友だちの家にあそびに行く時も安心して出かけることができます。ほんとうにいつもありがとうございます。

ぼくも大人になつたらそんなカッコイイヒーローになりたいです。





## 温かな気持ちのサイクル

大多喜町立大多喜小学校 六年 岩瀬美咲

私の住んでいるまちは、犯罪があまりないと聞いています。近所の人は優しくあいさつをしてくれたり、採れた野菜をくれたりすることもあります。温かさにあふれたまちです。でも、ニュースを見ると、他のまちでは悲しい事件が起きていたり、困っている人がいたりして、「社会を明るくする運動」が必要だと知りました。どうして私のまちと違うのでしょうか。

私の中に一つの疑問が生まれました。それは、「まちが温かいから犯罪が起きないのか。それとも犯罪がないからまちが温かいのか。」ということです。もし、まちの人たちが心を開いて笑顔でつながっていれば、困っている人がいたりすぐに気づいて助けられるかもしれません。お互いを気にかけ、支え合う気持ちが、犯罪を未然に防ぐことにつながっているのではないかと思います。

反対に犯罪が全くない安全な地域だから、みんなが安心して心を開いて、温かく接することができるという見方もできます。不安や心配な気持ちがないからこそ、明るくできるのかもしれません。私はこの二つのどちらが正しいのか答へ出ません。でも、よく考えてみると、きっとどちらか一方ではなく、両方がお互いに良い影響を与え合っているのではないかでしょうか。「温かい気持ちがあるから安全なまちになり、安全なまちだから、もっと温かい気持ちが生まれる。」それはまるで、温かな気持ちのサイクルだと思します。

少しひすればこの温かな気持ちのサイクルを広げて、社会全体を明るくすることができるのでしょうか。私は、特別なことをする必要はないと考えています。小さなことから始められると思います。

私は、忙しそうな家族の姿を見ると、手伝いをします。例えば、洗濯物を取り込んでたたんでいます。お父さんもお母さんも温かな気持ちになると黙っててくれます。また、学校では、困っている友達がいたら、できる限り助けています。この前は、牛乳をこぼしてしまって落ち込んでいる友達の片づけを手伝ってあげました。登校したときには、校舎に入る前に、一輪車が乱れていることに気づき、きちんと整頓しています。こうした小さな思いやりや行動が、誰かの心を温かくし、やがてその温かさが、また別の誰かに伝わっていくと思います。

社会を明るくすることは、大きな力をもつ誰かが一人で行うことではありません。私たち一人一人が身近な所で、少しの勇気と優しい心をもって行動すれば、少しずつ社会は明るくなつていくと信じています。私はこれらも、自分の周りにいる人たちに優しくすることを続けます。そして、私のまちにこの温かなサイクルが続いてほしいです。それから、このサイクルの輪が広がり、温かな気持ちのあふれる社会になつてほしいです。





## 優しさが繋がる社会へ

船橋市立塚田南小学校 六年 徳岡 大晟

毎日テレビで犯罪のニュースを目にします。殺人や万引きなど色々な犯罪。そんな大きな犯罪ではなくても、僕も日常で罪をしてしまつてることがあると思います。家族や友達に一言きつく言つてしまつたとか、嘘をついてしまつたとか、そんなこと。もしかするとそんな些細なことは罪とは呼ばないのかもしれないけれど、そういう小さな罪は僕が生きてきた十二年間でいくつか犯している気がします。罪を犯してしまつた時、どうすれば良いのか、僕なりに考えてみました。

先日、母と弟と三人で電車に乗り出かけました。もうすぐ目的地の駅に着く、という時に母の体調が悪くなり、途中の駅で急遽下車することになりました。母は冷や汗をかいており、とてもしんどそうでした。今まで見たことのない母の顔を見て、不安で仕方なかつたです。

電車を降りた途端、母が倒れてしまいました。僕は驚き、どうして良いのかわからなくなり、「誰か助けて下さい、助けて下さい。」と泣きそうになりながら、助けを呼びました。駅には沢山の人がありましたが、知らないふりをして通り過ぎて行く人も沢山いて、とても悲しくなりました。

倒れた母はすぐに気がつき、立ち上がる事ができたのですが、ちょうどその時に一人の男の人が僕たち家族の近くに来て、「大丈夫ですか? 今駅員さんを呼んできますね。あそこの空いている椅子に座つて待つて下さい。」と声をかけてくれました。その人はすぐに駅員さんを呼んできてくれ、母に自動販売機で水を買って手渡してくれました。母もその時にはさつきより冷や汗が少し落ちていており、お礼を言つて水を受けとつていま

した。そしてその男の人は僕と弟に「お母さんのこと、しつかり見てあげてね。」と言って、向かいのホームに来た電車に乗って行きました。僕は「ありがとうございました。」と言いましたが、母が倒れるという人生で初めての出来事に動搖していて、ちゃんとその人に聞こえるような声でお礼を言えたのが、正直おぼえています。ただ、誰も知っている人がいない場所で声をかけてくれ、僕たちを助けてもらつた時は本当にありがたくて、安心したのは今でも覚えています。僕はこの日の出来事を一生忘れないと思います。

帰りの電車で母が、「さつき助けてもらつた人にはもう会えないかも知れないけれど、いつか何処かで誰かが助けを求めていたら、その時に今度は自分が助けてあげなきゃいけないよ。良いことをすれば巡り巡つて自分に返つてくるし、逆に悪いことをすれば、それもいつか自分に返つてくるからね。」と、僕に言いました。

僕は今回の経験から、人から親切にしてもらつたり、助けられると温かい気持ちになると強く感じました。反対に、助けを求めている時に知らないふりをされたりすると、辛く悲しい気持ちになりました。

困っている人が目の前にいるのに、見て見ぬふりをするのも小さな罪です。たとえば電車で席を譲れなかつたとか。僕は今まで何度も犯してしまつたそんな小さな罪を反省し、これからは良い行動でそれを取り返していくと思います。日常の中で小さな罪があつたとしても、それをきちんと反省して、良いことで取り返そつとする気持ちが大切だと思います。一人一人がそういう気持ちが大切だと思います。一人一人がそういう気持ちで生きることで、犯罪や非行のない、良いことが巡り巡る社会がつくれられると僕は考えます。





# 「未来の自分のために今までやること」

市原市立清水谷小学校 六年 藤田永来

「ぼくの家族は六人家族だ。我が家リビングには、「家訓」といわれる藤田家で大切にしたいことが四つ書かれている。」

「一、たくさん笑つ。」

「二、たくさん食べる。」

「三、たくさんねる。」

「四、たくさん遊ぶ。」

そこには、「家族一緒に」がキーワードになつてくる。特に朝・夕ご飯は、家族全員で食べるなど、幼い時から当たり前のようにやつてきていて。しかし、友達の話を聞くと、「家族と一緒に食べない。」とか、「家族より友達と過ごしたい。」などといつ意見を聞く。父に、「どうして家族と一緒に過ごす必要があるの?」

と幼い時、聞いたことがある。その時に、「いつかは、永来も親から自立して離れて行つてしまう。できるだけ一緒にいられるときは一緒にいて、今しかない時間を大切にしたい。」

と、言つていたのを思い出した。ぼくは今、一緒に家族とご飯を食べているけれど、これからその当たり前のことができるのだろうか。これからいろいろな習い事が増えて、毎日一緒に食べることができなくなつてくるかもしない。そう思うと、すごく貴重な時間を今、過ごしていると思った。

今回、社会を明るくする運動の意見文を書くにあたり、母に相談してみた。

「どうして非行や犯罪があるのかな。」

と聞くと、

「非行や犯罪って、お母さんが小さい時からあつたよ。きつとね、『話を聞いてほしい』『誰かに話したい』といふ気持ちがうまく解消されなくて、心にぽつかりと空いた穴をどうにか埋めようとしているのではないかな?」

と、話してくれた。ぼくがこの世に生まれて十二年。ご飯が食べられないとか、服が買えないとか、好きな野球

が制限されるとか、そんなことは一切なくて、何不自由なく過ごしてきた。そして、悩んでどうしたらよいかわからぬ時は、すぐに両親に相談していろいろなことを一緒に乗り越えてきたと思う。生きていれば不安なことも悩みももちろん出てくる。そんな時に、話を聞いてくれる両親や友人がいなかつたらぼくはどうなっていたのだろうか。急に不安な気持ちになつた。

母は、教育の仕事をしていて、「先日研修で、親と子のサポートセンターの教育相談について研修を受けてきた。」と話してくれた。千葉県内での相談件数は、一年間で六千件以上であり、親だけでなく、小・中・高校生が、同じくらいの割合で悩みを相談してくれた。「自分の話を聞いてほしい」「誰かに分かってほしい」という相談者が多くいるということだ。相談者が、「話を聞いてくれる」「自分が理解されている」と思えれば、きっと非行や犯罪をやろうとする気持ちも芽生えないのではないかと思う。

ぼくの周りには、非行や犯罪をしている人はもちろんいない。「やってみようよ。」など非行と思われることを誘つてくれる人もいない。しかし、自分が生きている以上、いろいろな友人と出会うだろう。そんな時、ぼくは自分の意思で、「やってはいけない。」と言えるだろうか。一緒にやつてしまつて「みんなにばれなければいい」とか、「回だけならないかな」とか思つたりしないだろうか。

「これは、『補導員』といつて、夜遅くまでゲームセンターやフードコートにいる子供に声かけをし、危険なことに巻き込まれないように子供たちを守る活動で、お父さんは、そんな活動もしているんだよ。」

と話してくれた。それを聞いて、こんな活動があるなんて知らなかつたし、父が駅周辺のお店に行って、見回りをしていたことに驚いた。父の話では、声をかけると、反抗する子はいないようで、すぐに、「すみません」と言つて、頭を下げる子が多いようだ。素直でどこにでもいる子だと教えてくれた。

ぼくは、両親や優しい友人がいてくれるおかげで、幸せに暮らしている。友人がもし悪い道に行こうとしていたら、ぼくができることは、友人の話を聞いてあげることだと思う。自分の心中にあるモヤモヤや不安つて聞いてもらうだけですつきりすることがある。だから、しつかり話を聞いてあげたい。一度しかない人生を笑顔いっぱい過ごしていきたい。過去は変えることができないけれど、未来は自分自身で変えることができる。明るいぼくの未来のために、たくさんの幸せをこれからも感じていきたい。



# あいさつは社会を変えると信じて

八千代市立西高津小学校 五年 はやし こうのすけ 林 洸乃介

「ぼくの小学校では「あいさつ名人」と「反応名人」を目指して、あいさつ運動が行われています。

あいさつ名人は、だれかと会った時、元気よくあいさつをする名人のことです。反応名人は、相手の言つたことや行動に対して、前向きな発言や反応をしてあげる名人のことです。

ぼくは、あいさつ名人と反応名人が、とても大事だな

と思つ出来事がありました。

それは、ぼくが夏休みに八千代青年会議所が主催の青少年健全育成事業「全力少年少女プロジェクト」に参加した時のことです。ぼく達は、東京都伊豆諸島の式根島に行きました。そのプロジェクトは学校からもらつてきましたチラシで知りました。お母さんがチラシを見て、

「参加してみたらどう。楽しそうだよ。」と、強くすすめ

式根島の旅は班行動で、ぼくは一班でした。男子は六

ので、始めはしぶしぶ参加してみようと思いました。

参加メンバーは、プロジェクトに参加希望をした八千代市内の四年生から六年生の男女三十五人です。

ぼくは、「式根島ってどい。」「知らない人と知らない場所に行つて楽しいのかな。」と、うきうきする気持ちちは半分位でした。

だけど、実際に旅が始まると、自然ときんちょうがほ

ぐれていきました。なぜなら、みんなで元気よくあいさつをして、相手に思いやりをもつて反応することで、どんどん仲よくなり、笑顔になつていつたからです。引率してくれた八千代青年会議所の人達も、たくさんあいさつをしてくれました。

年生のじょう君、四年生のたかし君、そして五年生のぼくです。女子は、五年生のめいこちゃん、せいらちゃん、ゆづきちゃんです。最初はすくなくともなかつた一班だつたけれど、たくさんあいさつをして、相手の行動に「ありがとう。」「がんばれ。」と反応していくことで、明るくワクワクした気持ちになつていきました。旅の最後には、さみしい気持ちでいっぱいになりました。

ぼくは今回の旅を通して、あいさつと思いやりの大切さを改めて知りました。学校名も知らない子同士が、あいさつを通して、仲間になり、チームワークを深めました。また、大人の人が、ぼく達の話を真剣に聞いて反応してくれたこともうれしくて、安心しました。

ぼくは、あいさつをすることで、まわりの人も自分も清々しい気持ちになり、明るい社会をつくることが出来ると考えました。一つ一つのあいさつは、小さなことかもしれません。でも、その小さな一つのあいさつで、犯罪が防げたり、相手に対する思いやりがもてると思います。勇気を出して、あいさつをする。ただ、それだけで、自分のまわりが明るくなり、社会も変わると信じています。

式根島の二泊二日の船旅は、チームで協力して、地図を見て時間内にチェックポイントを回るフォトロゲイングや、海水浴、星空観測など、新しい仲間達との忘れられない冒険になりました。ぼくは、式根島で見たあの星空を一生忘れません。

一学期、学校に行つたら、まずは元気よく先生や友達にあいさつをしたいと思います。そして、思いやりのある行動がとれる自分になりたいです。



法務省からのお知らせです

こ う せ い ほ ご

# 「更生保護」って なんだろう?



その後、ホゴちゃんは立ち直ろうとしている人を温かく見守る心優しいペンギンになりました。いつも、犯罪や非行のない明るい社会を願って活動しています。



しあわせ

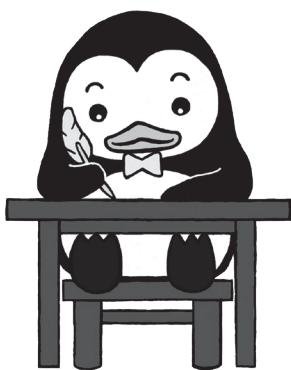
「幸福の黄色い羽根」は、犯罪や非行のない幸福で明るい社会を願うシンボルです。



更生ペンギンのサラちゃん

地域のチカラで立ち直りを支える更生保護

# 中学生の部作品





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

## やり直す勇気を支える社会へ

松戸市立第一中学校 三年 汪

わん  
鑫 明

人は、失敗から学ぶ。そう教わったことがある。しかし、

犯罪や非行という「大きな失敗」をした人に対して、社会は本当に学び直す機会を与えていたのだろうか。最近、そんなことを考えるようになった。

ニュースで、少年院や刑務所を出た人たちが再出発を目指す姿を見かける。その中には、本当にやり直したいと願い、過去の自分と向き合っている人もいる。一方で、どこへ行っても「前科者」という目で見られ、孤立してしまった人がいる現実も知った。誰かを傷つけた過去は、簡単に許されるものではない。被害にあった人の苦しみを無視してはいけないと思う。しかし、罪を償つた人が「人間としても価値がない」と扱われる社会では立ち直りたくても立ち直れない。そうなれば、再犯が起こる可能性も高くなる。被害者も、誰も救われない。私

はそんな社会を望んでいない。

本で読んだ話が心に残っている。ある元非行少年が、「誰かにおかえりって言われたかった」と語っていた。「帰る場所」がないと感じたとき、人は簡単にまた孤立へと戻ってしまう。過去を反省し、まっすぐに歩こうとしている人に、私たちはどんな言葉をかけられるのだろう。もちろん加害者にだけ目を向けてはいけない。被害を受けた人が安心して暮らせることが大切だ。だけれど、誰かが過ちを繰り返さないよう支えることも、もう一つの「明るい社会づくり」だと思つ。

今の社会は、「責任を取らせる」ことには厳しくても、「立ち直りを支える」ことはまだ少ないようを感じる。ニュースやインターネットでも、「一度罪を犯した人はもう信用できない」「刑務所から出すべきじゃない」と

いつた厳しい声が多い。でもその中に「反省しているならやり直してほしい」と書いている人もいる。私はその声に、希望を感じる。

人は環境や人間関係で、良い方にも悪い方にも変わつていく。そのことを忘れないようにしたい。過去を悔いて、変わらうとしている人に手を差し伸べること。それは「甘さ」ではなく、「希望」だと思つ。社会は罰だけでは成り立つてゐるわけではない。

私は在日中国人として日本で暮らしている。普段は優しくしてくれる人が多いが、中国の話題がニュースなどに出ると、ネットやテレビの「メントなど」で「心ない言葉」を目にすることがある。そのたびに、「たつた一つの情報で、すべての人が同じだと決めつけられる怖さ」を感じる。偏見は、人を孤独にして、心に深い傷を残すものだ。だからこそ、犯罪や非行をした人への偏見も、同じように恐ろしいものだと思つ。過去だけでその人を決めつけず、「変わりたい」という気持ちを信じることができる社会であつてほしい。偏見をなくすことは簡単ではないけれど、せめて自分は人を決めつける言葉を使わないよう努めようと思つ。

私はまだ中学生で、何ができるか分からないが、将来、誰かの人生を支え、変えるきつかけになるよつた言葉をかけられる人間になりたい。たとえば、クリスの中で孤立している子に声をかけることも、小さな第一歩だと思う。過ちを否定するのではなく、その先にある再出発を信じること、それが、社会を明るくする運動の意味ではないだろうか。

やり直す勇気を持った人に、やり直せる場所を。そして、人を偏見で決めつけず、信じ合える社会を。私は、そのような社会の姿を心から願つてゐる。





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

## 見えない壁の向こうへ

南房総市立富山中学校 三年

本明天陽  
ほんみょう たかひろ

塾の帰り道、駅前の広場でしゃがみ込んだ男性がいた。髪はぼさぼさで、膝にはビニール袋。中には小さなパンと飲みかけのペットボトルが入っていた。すぐそばを人が通り過ぎていくのに、誰も目を合わせようとしない。僕もそうだった。足を止めれば何かを背負わされるような気がして、視線を落としたまま通り過ぎた。

でも、家に帰つてもその人の姿が頭から離れなかつた。あの人はどこから来て、どうしてあそこに座つていたのだろう。働きたくても働けない人、家族に拒絶された人、居場所を失つた人。ニュースやネットでそのような記事を目にすることはあるたが、今日まではそれが自分の目の前にある現実だとは思つていなかつた。

僕は、社会の仕組みをすべて知つてゐるわけではない。それでも、一つだけははつきりと分かる。人は居場所を失うと、生きること自体がとても難しくなる。そして、

その「居場所をなくす瞬間」は、誰にでも訪れる可能性があるということだ。

間違いをした人や助けを必要とする人に、社会はとても厳しい。もちろん、罪を犯したら償つのは当然のことだろう。しかし、償つた後もずっと背中に貼られ続ける見えないラベルは、いつたい何のためにあるのだろう。「一度と同じことをするな」と言いながら、その人がやり直せる道を閉ざすのは、矛盾していないだろうか。

家も借りられず、仕事も断られ、話しかけても避けられる。そうやって壁に囲んでおいて、「どうしてまた失敗するのか」と責めるのは残酷すぎる。

子どもでも同じことは起きる。学校での失敗や非行は、周りから「悪い子」の印を押されるきっかけになる。一度その印を押されると、成績や態度よりもまずそのイメージで判断されるようになる。

僕のクラスにも、そのように孤立していった友達がいた。最初はちょっととしたルール違反や遅刻だった。でも先生の視線も周りの空気も、次第に「またお前か」という色を帯びていった。本人が変わろうとしても、その色は消えない。

「悪い方へ行くのは本人の責任だ」と、大人はよく言う。確かに、間違った選択をしたのは本人であり、その行動には責任がある。だが、その責任は本当に本人だけにあるのだろうか。その道しか残らない状況に追い込んだのは、いったい誰なのだろう。

今の社会は誰かの道を狭めておいて、転んだら「やつぱりな」と笑う。そんなやり方で本当に人は立ち直れるのだろうか。

もし僕が将来、大きな間違いをしてしまったらどうなるだろう。きっと今の社会では簡単には立ち直れない。でも、間違いを犯したことと、そこからやり直すことは、別だと思う。罰を与えることが必要なときもあるだろう。しかし、未来を奪う権利までは誰にもないはずだ。

人は誰でも弱くなることがある。病気や事故、家庭の問題、失業…。きっとかけはいくつもある。そして弱くなつたとき、頼れる場所があるかどうかで、その後の人生は大きく変わる。助けを差し伸べられた人は再び歩け

る。突き放された人はそこで止まってしまう。それだけの違いだろう。

だから僕は思う。本当に強い社会とは、弱くなつた人を支えられる社会だ。一度失敗した人をもう一度迎え入れられる社会だ。見えない壁を高くするのではなく、その壁に扉を作ること。その扉を開く鍵は、制度や法律だけではない。「おかげり」「また一緒にやろう」という一言や、小さな行動だ。

それは中学生の僕にもできる。笑つて話しかけること、困つている人の話を聞くこと、仲間外れにされている人の話を聞くこと、そうしたことの積み重ねが、誰かの未来を変えるのかもしれない。

今、僕たちの社会は、失敗した人を二度とこちら側に戻さないような仕組みになつていらないだろうか。その仕組みを壊すのは、誰か特別な人ではない。一人ひとりが見えない壁の向こうに手を伸ばすことから始まる。

僕はまだ中学生だ。でも、いや、だからこそ信じたい。人は変われるし、社会も変われる。そして、未来も変えられる。そのための一歩は、いつだつて、誰にたつて目の前にある。そして、その一歩を踏み出すかどうかは、僕たち次第だ。



千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

# 人は変わる事ができるのか

睦沢町立睦沢中学校 三年

枚森大沖

毎日のようにテレビのニュース番組でこれでもかといふくらいに、事件や犯罪を耳にする。その度に悲しんだり怒ったり、時々「またか……」とウンザリした気持ちになつたり……。私の気持ちは落ち込むばかりだ。

ある時、これだけの事件の数があれば罪を犯した人が身の周りにいることもあるのではないかと思った。考えただけでなんだか胸の辺りがゾワゾワし出した。正直怖くなつた。罪を償つたからといっても悪い人に決まつてはいる！私にあの経験がなかつたら、迷わずには「関わらぬで無視するぞ！」とハッキリ言いきつていたはずだ。

私は、中学校生活の二年間をほぼ無駄にしてしまつた……。入学して一ヶ月が経つた頃のある朝、それは突然起つた。布団から起きようとすると吐き気や胸痛やめまいといった症状が出て起き上がれないのだ。しかし夕方になると何もなかつたかのように元気になつていて、病院を受診すると、二つ目の病院で「起立性調節障害」

という自律神経の病気であることが分かつた。どうやら思春期に多く、軽ければ朝起きるのが辛い程度で日常生活に支障がない人が多いらしいが、私の場合は違つてしまつた。

一年生の時は休みがちで体調が良ければ午後に登校するものが精一杯だつた。周りに理解されにくい病気のため、クラスメイトからは「学校さほんなんよ。」とか「なんでこんな時間に遅れて来るんだよ？もつと早く来いよ。」とか……。心ない言葉をよく投げかけられていた。「急げているわけじゃない」と分かってほしくて説明をしてみたが、「自律神経」という目に見えない原因は誰にも理解されにくかつた。すると、だんだんと面倒になり「遅刻は個人的理由によるもの」と言い放つようになった。今考えると随分と生意気な言い方をして、理解してもらうことを諦めていたものだと思う。その頃の私は学校へ行く事が苦痛な人以外の何者でもなかつた。

一年生になり、クラスや担任の先生が変わった。私の体調は相変わらずだったが、登校するとクラスメイトが嬉しそうに接してくれる事が増えた。「なぜだろう?」と不思議に思つてはいたが、深く考えたことはなかつた。ある日は給食に間に合うか下駄箱付近まで見に来てくれたこともあつた。またある日は、家庭科の授業を受けられずに残つた課題の裁縫をする私に付き合つて、放課後に一緒に作業をしてくれたこともあつた。今思い返すといつも担任の先生が関わつてくれていた。きっと先生が病気のことをクラスメイトに説明してくれて、助けるよう言つてくれたのだと思う。その頃から毎日登校ができるようになり、「学校に行けば楽しい」と思うようになつていつた。

二年生になり、待ちに待つ修学旅行のことだ。それまで毎前の登校は続いていたが、修学旅行は集合時間が早いことやみんなと一緒に行動できるかということなど、不安でいっぱいだった。しかしながら修学旅行の三日間、起きることはもちろん、全ての行動を計画通りに進めることができたのだ!初めての京都観光もすばらしい経験だったが、二年ぶりにちゃんとみんなと同じ行動ができた感動でいっぱいだった。そして帰りの移動のバスの中でのこと、「起きれるじゃないか、できるのにやらないのはもつたいないぞ。」と先生に言われてハツとした。ずっと起きれなかつたので考えもしなかつたけど、

前からできたことだつたのかもしれないと先生の言葉で気付かされたのだった。「どこか甘えていたのかもしれない。みんなが理解していくれる今のほうが楽だから。」そんな甘つたれた気持ちが私の心のどこかにあつたのではないかと気が付いた。私はそれからできるだけ早く登校するために、寝る時間を早める努力ができるようになつた。何より友達や先生の優しさに応えたくなつたのだ。

私はこの経験を通じて、自分の行動は人の言葉や優しさ、受け入れてくれているという安心感によって変化するところがつた。私は周りの人から受け入れられずにいた時、自分は悪いことをしているのではないかと思つていた。おそらく罪を犯した人たちの中にも過去の自分とは違つて、……と私のように肩身の狭い思いをしていた人も居るだろう。そして、私が周りの人に支えられて学校生活に復帰できたように、罪を犯した人たちを社会復帰させるのは周りの人の「優しさ」ではないかと思う。だからそういう人を差別するような考えは社会復帰を妨げてしまうので、できるだけ罪を犯した人たちを理解していくつと、私の中で考えが変わつた。そのような「優しさ」を持つた人が増えていくと、もっと明るい社会になり、安全で安心な社会になるだろう。

「周りの優しさで人は変われるんだ!」ということを、私は強く伝えたい。



# 人の繋がり

芝山町立芝山中学校 三年 井口瑠菜

繋がり。人と人の繋がりって本当に素敵だと思つ。出会いがあつて、繋がる。別れがあつても繋がつていね。

人生の中でなくてはならないものといつても過言ではない。繋がりがあることによつて、人は支え合い、励まし合い、学び合い、そして成長することができるのだろう。それに喜怒哀楽といった感情がついてきて、さらに成長していくのだろう。人にはいろいろな関係がある。家族、友達、先輩、後輩、地域の人。それぞれとの何げない会話。その奥底には温かい心の繋がりがあるのだろうと私は考える。

私はこれまでに人との繋がりがどれほど大きな意味をもつものなのかを深く感じた経験がある。それは、小学校六年生の担任の先生との出会いだった。この先生との出会いがなかつたら今の自分はないと言つ切れるぐらじ

思い出が込み上げてくる。

私は自分の考えや思い、悩み事をしつかりと言葉にして言つことが苦手だった。友達がいなかつた訳ではないが、なにかと周りと距離を取つてしまつようなところがあつた。自分の中ではいろいろな感情があるのに言葉にして出すのを恐れていた。間違えたらどうしよう、変に思われたらどうしよう。そんな不安ばかりが頭の中を混乱させていた。しかし、六年生の担任の先生はそんな私にいつもまつすぐに向き合つてくれていた。休み時間や帰る前のほんの少しの時間でも優しく声をかけてくれた。

私は徐々に自学ノートに日記を書くようにもなり、「その考え方いいね」「いつも助かつていね」とお返しをくれ、いつの間にかその会話が楽しく思えるようになつていた。言葉にすることで気持ちが楽になつたのは間違いなかつ

た。それまでためていたことが吐き出せて、もやもやした感情がなくなつたような気がした。この経験がなかつたら今でも自分の気持ちをうまく出せないままでいたと思う。そして、この言葉はずつと忘れない。「会えなくなつても私たちはずつと心で繋がつてゐるから大丈夫。これからもずっと応援してゐるよ。とにかく自分らしくね。」

小学校生活最後の卒業式の日、先生からの言葉。この言葉でどれだけ強い気持ちになれたことか。前に進んでいけると確信した。

先生との繋がりは、卒業してからも続いている。中学生の今も、直接会つて話すこともある。環境が変わつても信頼できる人がいるという安心感は私の支えになつてゐる。そんな経験を通して私が思つたことは、人との繋がりがあることで人は強くなれるということだ。人生の中で悩んだり、つまずいたりすることが多くあると思う。その時に自分が安心して話せる人がそばにいるだけで、「自分はできるんだ。」と思える。

ニュースを見ていると犯罪や非行などの話を聞くことがある。そのたび私はがっかりする。そして、なんでこんなことをするのだろうと考へた時に「この人には自分

の思いを安心して話せる人がいるのだろうか。もし、話せていたらこんなことは起きなかつたのではないか。」と感じる。誰にも頼れず、孤独を感じていると人は悪い方向へと進んでしまうのだと思う。しかし、繋がりがあれば自分は一人だと思わず、正しい道を歩んでいけるのではないか。

明るい社会は、一人だけの力ではつくることができない。人と人との繋がりが社会を明るくしていくのだと思う。相手を理解する気持ち、一つの思いやり、ちょっととした声かけ。小さなことでも少しずつ続けていくことが、誰かの心を救うことにつながつてゐるのではないか。人は、一人では生きていけない。必ず何かしらの繋がりがある。繋がりがあるからこそ、ありのままの自分を見つけ、成長するのだと思う。繋がりが増えていけば、犯罪や非行は減つていくのではないだろうか。私自身、先生との繋がりがあつたからこそ今の自分がある。だからこそ誰かの力になりたいという思いは強い。特に人と話すことを大切にして、繋がりを広めたい。繋がりは人の心を変える力がある。私はこの力がもつと素敵なものになることを願い続ける。



## 社会を明るくする運動

君津市立君津中学校 三年 幕田 龍生

私は、この夏に「社会を明るくする運動」という言葉を初めて聞きました。正直なところ、最初は名前だけ見ても、どんな活動なのかよく分かりませんでした。けれど、学校で配られたプリントや先生の説明を聞くうちに、この運動がただのスローガンではなく、とても大事な活動だということが分かつてきました。

社会を明るくする運動は、犯罪や非行をなくし、立ち直ろうとしている人たちを応援する運動です。悪いことをしてしまった人を「もう関係ない」と切り捨てるのではなく、もう一度やり直すチャンスを与えようという考え方方が基本にあります。そうやって再び社会の一員として受け入れることが、みんなが安心して暮らせる社会につながるというのです。

私は今まで、ニュースで犯罪の話を聞くと「悪い人だな」とか「怖いな」と思つばかりでした。でも、この運動のことを知つてからは、「どうしてその人はそんなこ

とをしてしまったのか」という理由にも目を向けるようになりました。貧しさや孤独、人間関係の悩みなど、背景には色々な問題があることを知つたからです。そして、過去の間違いを反省して、やり直そうと努力している人たちもいるということを初めて意識するようになりました。

去年、地域の清掃ボランティアに参加した時のことです。近所の公園でごみ拾いをしていると、年配の男性が「こっちの草むらにもごみがあるぞ。」と声をかけてくれました。その人はとても明るくて、一緒にいた子どもたちとも気さくに話していました。後から母に聞くと、その方は昔、罪を犯して刑務所に入つていたそうです。私は驚きましたが、その姿を見ていると、その人が過去に何をしたかよりも、「今どう生きているか」のほうが大事なのだと感じました。

社会を明るくする運動では、地域の人とつながる行事

や、子供への生活指導、相談の場の提供など、色々な活動が行われています。それは単に犯罪を減らすためだけではなく、「もう一度やり直せる社会」を作るための準備なのだと思います。立ち直ろうとしている人にとって、社会から受け入れられる経験は、自信や希望につながるはずです。

私は、この運動に関わる人たちの話を聞いて、「無関心が一番怖い」と思いました。困っている人がいても見て見ぬふりをしてしまえば、その人はますます孤独になります。再び間違った道を選んでしまうかもしれません。私たち一人一人が少しでも関心を持ち、声をかけたり助けたりすることが、その人の未来を変えるきっかけになるのだと思します。

もちろん、立ち直るためにには本人の努力が必要です。反省もしなければいけませんし、失った信頼を取り戻すのは簡単ではありません。でも、その努力を見守る人、応援する人がいることはとても大きな力になると思します。私も、人を信じる勇気を持ちたいと思います。

中学生の私にできることは小さいかもしれません。でも、学校で友達が一人でいたら声をかける、落ち込んでいる人がいたら話を聞くなど、日常の中ができる小さな支えはあります。こうした小さな行動が積み重なれば、いじめや不登校、孤立を減らし、社会を明るくする一歩

になると信じています。

この運動を知つて、「明るい社会」という言葉の意味が少し変わりました。単に笑顔や楽しさがあふれているだけではなく、困っている人や立ち直ろうとしている人が孤立せず、受け入れられる場所があること。それが本当の意味での「明るさ」だと思います。

これから私は高校生になり、大人になっていきます。そのとき、社会の中で自分がどんな役割を果たせるか、まだはつきりとは分かりません。でも、この運動のことを知った今、無関心な大人にはなりたくないと思います。困っている人や過ちを反省してやり直そうとしている人に対して、少しでも力になれるような人でありたいです。社会を明るくする運動は、特別な人だけが参加するものではありません。そこに暮らすすべての人に関わる活動です。私はこれからも身近な人との関わりを大切にして、自分から明るい社会をつくる一步を踏み出していくのと同時に、自分でやってしまった過ちをしつかりと認め、反省し、やり直せるようにしていきたいです。



## 私たちがつくる社会

千葉市立大椎中学校 三年 市原里穂

「犯罪者のその後の支援」これは社会問題として挙げられていくことだ。犯罪を犯してしまった人の社会復帰は、一言で言えば「困難」であると言えるだろう。ではどのようなことが困難なのか。

まず第一に、犯罪を犯したというレッテルが貼られ、業を背負い続けるということだ。これにより、周りから偏見の目で見られ、就職など社会に馴染むことが難しくなることもあるだろう。また、家族からの支援が受けられない場合も同様だ。こうして、生活や精神が困窮する

ことで、再び犯罪に走ってしまう場合が多いそうだ。そして負の連鎖が生まれてしまうのだ。これは当事者だけの問題ではない。これは私達が向き合わなければいけない問題であり、解決していく必要があるのであるのだ。

現在この問題に対して、民間企業やボランティア団体

が、身寄りのない元受刑者を受け入れ、就職の支援をする等、社会復帰への手助けをしている。しかし、これだけでは不十分だろう。

テレビを見ると、加害者や加害者家族への誹謗中傷を取り扱ったニュースを目にすることがある。犯罪者や非行者に対する世間の目は冷たく、厳しい。犯罪を犯したのだから仕方がないといえばそつなのだろう。しかし、それに対する行為が正しい行いであるとは、到底言えない。

多くの犯罪者は世間に對し、孤独感や疎外感を感じている場合や、犯罪が悪いことであるという意識が不足している傾向にあるといつ。しかし、これは私達にも当てはまるのではないだろうか。自分が取り残されている、独りであると感じる、思考がマイナス面に向き、自

分の価値が認められない。そんな瞬間がなかつただろうか。すべてがどうでもよくなり、投げやりになつてしまつことは、果たして一度もなかつただろうか。私にはある。そんな時、家族や友人、親しい人に話を聞いてもらう、寄り添つてもらう。そうやつて自分を認めてくれる人、一緒に考えてくれる人が周りにいた。だからこうして今、ここでこの作文を書けているのだと思う。そして、その中で自分一人では気づけなかつた発見が多くあつた。私は、真つ当に生きようと更生した受刑者を待つ先が、前述したような冷たく、暗い社会であつてほしくない。今の私のように、自分を気にかけ、一緒にいることを諦めないでくれる、そんな人達に囲まれて生活していければ良いなと思う。きっとその中で彼らは多くの学びを得られるはずだから。

私達に味方が必要なように、彼らにもそんな人がいることがいちばん重要なことなのではないかと思う。そのためには、私達一人ひとりの意識をえていく必要がある。まず、社会の犯罪者に対する偏見をなくすこと。次に、更生についての理解度を深めること。正しい情報を知り、それを広めることで、彼らの社会復帰がより円滑

に進み、再犯防止にもつながるのではないだろうか。私は、彼らがその後社会に進んでいくには、私達が、彼らを受け入れ、よりよい社会を作つていくことが、何よりも大切だと考える。





# あなたも今日から、光を灯す人に

成田市立成田中学校 一年 藤野伊織

社会を明るくすると聞くと、何か特別なことやとても大きなことを成し遂げる必要があるように感じてしまいがちですが、私はそうとは思いません。なぜなら、社会を明るくする力は、一人ひとりの日常の中にとっても身近な形で存在していると思うからです。それは、誰にでもできる小さな行動や、心の持ち方から生まれるものです。

私たちが社会を明るくするためにできる最も簡単な行動の一つは、「挨拶」と「小さな対話」です。朝、近所の人とすれ違うとき、「おはようございます」と笑顔で声をかける。お店のレジで店員さんと一言、二言、世間話を交わす。そうした何気ないやりとりは、人と人の間に温かい繋がりを生み出します。毎日同じ場所で同じ顔ぶれに会うことが多い地域社会では、この小さな繋がりがお互いを気遣う心や、いざといふ時に助け合つ土台を

築いてくれると思っています。顔も名前も知らない人々の集まりだった場所が、挨拶を交わすことで、少しづつ安心できる居場所に変わっていきます。

次に大切なのは、「感謝の気持ちを伝える」ことです。私たちは、普段の生活の中で、たくさんの人々の支えによって生きています。バスや電車を運転してくれる人、美味しい食事を作ってくれる人、道を清掃してくれる人。そうした日々の営みを支えてくれている人たちに、「ありがとうございます」と一言伝えるだけで、相手の心に光を灯すことができます。感謝の言葉は、ただの礼儀ではありません。それは、相手の存在を認め、その努力に敬意を払うことの表明だと私は思っています。感謝の言葉を伝える人が増えれば、社会全体に優しさと尊重の気持ちが満ち溢れていいくことでしょう。

そしてもう一つ社会を明るくする上で不可欠なのは「他者の視点に立つて物事を考える」ことです。私たちは皆、それぞれ異なる背景や価値観を持つています。そのため、時に意見が対立したり、理解し合えなかつたりすることがあります。しかし、そこで相手を拒絶するのではなく、「なぜあの人はそう考えるのだろう?」と想像力を働かせることで新しい発見が生まれるかもしれません。と捉えることができます。異なる意見を持つ人々の話に耳を傾け、その考え方を尊重することで、私たちはより多様性を受け入れる社会を築くことができると思います。それは、他者への理解が深まり、不必要的衝突や誤解を減らすこともあります。

笑顔と優しさは、まるで伝染するかのように広がっていきます。あなたが誰かに向かって笑顔を見せれば、その笑顔はまた別の誰かに向けられるかもしれません。あなたが困っている人に手を差し伸べれば、その行動を見た人がまた別の誰かを助ける勇気を持つかもしれません。これらの小さな行動は、それぞれが小さな灯りのように一つひとつは弱くとも、集まれば大きな光となり、社会全体を明るく照らす力になるのです。

社会を明るくするということのは、特別な才能や力を持つ人だけができるではありません。それは、日々の生活の中で私たちが意識して取り組める、ごく当たり前のことなのです。笑顔で挨拶をする、感謝の気持ちを言葉にする、他者の意見に耳を傾ける。こうした小さな一歩がやがて大きな波となり、私たちの社会をより温かく、より満ちた場所に変えていくと思します。今日から、あなたもこの小さな光を灯す一人になつてみませんか。





# 見て見ぬふりからの脱出

香取市立佐原第五中学校 一年 金子 栄詠かねこ えいゆう

インターネットの普及で、少年犯罪のニュースを見聞きする機会が多くなったように感じます。万引きなど、SNSで知り合った見知らぬ人物との交流によるトラブル、違法薬物の使用など、僕とそれほど変わらない未成年者が、何らかの犯罪に関わったり、巻き込まれたりしています。お金欲しさに、安易に闇バイトに手を出してしまった人もいます。少年犯罪の検挙率は、近年、減少傾向にあるのですが、その再犯率となると、およそ三十パーセント前後と、決して低くはありません。三人に一人が、再び犯罪に手を染めてしまっている状況です。犯罪を犯したことにより、仕事に就くことが困難になつたり、家族や支援者との関係が途絶えたりと、社会的に孤立してしまうことなどが、再犯の要因となつているそうです。僕はこれまで、少年犯罪のニュースを見聞

きしても、犯罪に至るまでの背景や、犯罪を犯してしまったその後に、目を向けたり、深く考えたりすることはありませんでした。それは、「自分には関係がない」と、無意識のうちに見て見ぬふりをしていたからなのかもしれません。

以前僕が歩道を歩いていた時、反対側の歩道を僕よりも少し年上のお兄さんたちが歩いていました。そのお兄さんたちは、急に車道に出てきて立ち止まつたかと思うと、走ってきた車を止めて、堂々と車道を歩いてこちらに渡つてきました。お兄さんたちは、「経験値、経験値」と、得意げな顔をして言じ、「ヤニヤ笑いながら意気揚々と去つて行きました。その一部始終を見て僕は驚いてしまいました。車道を堂々と渡つてきたことにも驚きましたが、それよりも、人に迷惑をかけていることを気に

も留めず、得意げにしていたことにも驚いたのです。止まってくれた車の運転手さんにお礼はありません。得意げなので反省もしていないでしょ。僕なら、そんなかつて悪い、誤った経験値はいりません。でもそのお兄さんたちは、過去にも同じ過ちを犯して、成功した経験があるのだと思います。だから今回も同じように、堂々と車道を渡ってきたのでしょ。誤っていると気がつかないまま、かつて悪い経験値を、その日、新たに積んでしまったのです。それは犯罪ではないのかもしれません。しかし、その小さな誤りの積み重ねが、いつか犯罪に結びつくかもしれないと思うと、僕は少しモヤモヤした気持ちになりました。僕にできたことは何か、思い出すたびに考えます。しかし、車道を渡るお兄さんたちに向かって「危ないですよ」と声をかける勇気は、残念ながらあの時の僕にはありませんでした。

「誤った行動を誰も指摘してあげないと、人は『これは正しいことなんだ』と勘違いするようになるんだ」と祖父が語ついていたことを思い出しました。その誤りは、エスカレートしてどんどん大きくなつていくなつです。しかし、人は、誤つてしるどわかつていても「危ないから」、「関わりたくないから」と見て見ぬふりをしてしまいかがです。でも、その見て見ぬふりが、大きな犯罪への手助けになつてしまつてしまふことに気がついている人は、どのくらいいるでしょうか。僕たちが見て見ぬふりをしてしまつた誤りは、もしかしたら、「行き場を無くした心や、居場所を探して助けを求めているサインかもしません。だからこそ、誤りが小さいうちに、声をかける、話を聞く、心に寄りそうなどの、一步踏み込んだ勇気が必要なのだと思います。そして、誤りや犯罪を犯してしまつ原因や、それらを未然に防ぐためにはどうしたらよいか、また、犯罪を犯してしまつた人たちが、どうすれば社会に馴染めるようになるのかなども併せて、もっと社会全体で考える必要があると思いました。

僕には、人生を台無しにしてまで犯罪を犯す人の気持ちはわかりません。しかし、犯罪を犯してしまつた人の背景や事情を、「聞くに値しない」と、ただ否定して排除するのは違うと思つています。お節介と言われることもあるかもしれません。しかし、その時何が必要なのかを良く考えて、これからは見て見ぬふりから一步踏み出せる人間になれるようにします。



## 支え合ひと未来

多古町立多古中学校 三年 半田陽梨

社会を明るくする運動作文に挑戦するにあたって、私は何を書けば良いか分からず悩みました。なぜなら、犯罪・非行のない地域社会づくりや、犯罪・非行をした人の立ち直り方について全くと言っていいほど何も知らなかつたからです。そこでまず、犯罪や非行について調べてみました。

調べていくと日本で最も多い犯罪は窃盗であることがわかりました。調べを進めていくうちに、窃盗がどれほど社会全体に影響を与えていたかも知りました。万引きの被害額は年間で数百億円にのぼり、私たちが普段使っているお店の経営を苦しめています。そのため閉店してしまうお店もあると聞き、窃盗は「お金を取る」というだけでなく、多くの人の生活や笑顔を奪う行為なのだと実感しました。私はこれ以上そんな悲しいことが起

きてほしくないと思いました。また、私と同じ中学生に絞って調べてみました。すると、中学生でも窃盗が最も多い犯罪であることが明らかになりました。特にコンビニやゲームセンター、書店など身近な場所で起きていることに驚きました。

なぜ、中学生が窃盗という犯罪に走ってしまうのでしょうか。その多くは、じじめやトロウマといった心の傷を抱え、ストレスを発散しようとしてしまうからだそうです。さらに、やつと社会に復帰できたとしても、「元犯罪者」という偏見に苦しみ孤立してしまつことが多いことも知りました。

じつしたら加害者は立ち直り、社会に復帰できるのでしょうか。調べた結果、相手の立場になって話を聞き、寄り添うことが大切だとわかりました。そして本人が努

力し、その努力を地域社会が温かく受け入れ支えることが、立ち直りと社会復帰につながるのだそうです。

ここまで調べてみて、一番心に残ったのは「犯罪を犯してしまった人の立ち直り」についてでした。なぜなら私自身も失敗して落ち込んでいたときに友達に支えられて立ち直れた経験があるからです。

私は以前、友達と出かける約束をした日にうつかりバスに乗り遅れてしまいました。通り過ぎるバスを見たとき、私の頭は真っ白になり、申し訳なさと罪悪感でいっぱいになりました。必死に謝った私に、友達は「大丈夫だよ、人間なんだから失敗することだってあるよ」と優しく声をかけてくれました。その言葉に心が救われ、私は再び前を向くことができました。もちろん窃盗と私の失敗は比べものになりません。しかし「失敗しても支えがあれば立ち直れる」という点では共通していると思います。

この経験から私は、失敗してしまった人を孤立させるのではなく、支えることがとても大切だと考えるようになりました。しかし現実には、社会に復帰した加害者が周囲から孤立してしまうことが多いといいます。私はこ

の問題を解決しなければならないと思います。その為にまずは犯罪を犯す原因をなくすこと、そして支え合うことが大切だと思います。だからこそ私は、犯罪を生まない環境を整えると同時に、立ち直りうとする人を社会全体で見守り支える必要があると強く思います。中学生だからこそできる支え方もあります。学校では、困っている友達に声をかけたり、一緒に勉強したり、休み時間に話を聞いたりすることができます。部活動やクラブでは、仲間が失敗したときに励ます言葉をかけたりすることができます。

社会を明るくする運動作文を通して、もし友達が軽い気持ちで窃盗を考えてしまったなら勇気を出して止められるような真っすぐな心を持つ人でいたいと思うようになりました。また、私は改めて人とのつながりや支え合いの大切さを感じました。誰かがつらい境遇にある時は、声をかけたり、相手の立場になつて話を聞いたりすることは、私にもできるはずです。そうした小さな行動の積み重ねが社会を明るくする第一歩だと信じています。そして支え合いの輪が広がれば、きっと誰もが安心して笑顔で暮らせる未来になると私は思います。

千葉市立幕張南小学校  
千葉市立園生小学校  
千葉市立千城台東小学校

## 佳作

長柄町立長柄中学校  
長南町立長南中学校  
富里市立富里南中学校  
野田市立北部中学校

## 中学生の部

勝浦市立勝浦小学校  
茂原市立二宮小学校  
白子町立南白龜小学校  
旭市立中和小学校  
香取市立小見川西小学校

## 小学生の部

## 入選

五六六年  
四年

二二二二  
年年年年

六六六五五  
年年年年年

原谷坂

中高絲森

野高磯長井

川本

野木井

村木野内栎

優葉齋

千藍綾胡

## 遙琶由優陽

杜奈乃

春乃海桃

花琉依来咲

千葉市立金沢小学校  
千葉市立美浜打瀬小学校  
柏市立柏第七小学校  
流山市立流山北小学校  
君津市立小櫃小学校  
我孫子市立布佐南小学校  
習志野市立大久保小学校  
木更津市立畠沢小学校  
袖ヶ浦市立昭和小学校  
館山市立館山小学校  
鴨川市立鴨川小学校  
鋸南町立鋸南小学校  
いすみ市立古沢小学校  
御宿町立御宿小学校  
一宮町立一宮小学校  
長生村立八積小学校  
長柄町立日吉小学校  
東金市立福岡小学校  
山武市立日向小学校  
横芝光町立光小学校  
芝山町立芝山小学校  
匝瑳市立豊栄小学校  
成田市立大栄みらい学園  
八街市立川上小学校  
富里市立富里小学校  
佐倉市立弥富小学校  
四街道市立大栄みらい学園  
印西市立小倉台小学校  
野田市立池の上小学校  
野田市立福田第二小学校

大高菰長高藍太水江今佐宗加渡田津里布原立小島田高釘藤橋荒山永  
久 櫻橋口岡砂 田野鳩井間像藤邊中嶋見施 野浜村中田本野本 口井  
謙美 琴和穂陸羽愛久優琉穂美紬夏昂空玲幹は円義愛琉立希雪望優  
心羽陽音永圭翔菜純遠芽蓬花音妃穂哉陽音汰な佳人結那也子兎愛明

## 中学生の部

千葉市立末広中学校	千葉市立幕張中学校	千葉市立山王中学校	千葉市立千城台南中学校
千葉市立打瀬中学校	柏市立柏第三中学校	千葉市立南部中学校	千葉市立打瀬中学校
市川市立第五中学校	船橋市立習志野台中学校	我孫子市立湖北中学校	市川市立第五中学校
習志野市立第三中学校	船橋市立習志野台中学校	我孫子市立湖北中学校	千葉市立打瀬中学校
八千代市立八千代台西中学校	市原市立国分寺台中学校	鎌ヶ谷市立第二中学校	千葉市立打瀬中学校
市原市立国分寺台中学校	木更津市立岩根西中学校	袖ヶ浦市立昭和中学校	市原市立国分寺台中学校
木更津市立岩根西中学校	富津市立大佐和中学校	館山市立第一中学校	木更津市立岩根西中学校
富津市立大佐和中学校	袖ヶ浦市立昭和中学校	鴨川市立安房東中学校	富津市立大佐和中学校
袖ヶ浦市立昭和中学校	館山市立第一中学校	鴨川市立安房東中学校	袖ヶ浦市立昭和中学校
館山市立第一中学校	鴨南町立鋸南中学校	鴨川市立安房東中学校	館山市立第一中学校
鴨南町立鋸南中学校	勝浦市立勝浦中学校	鴨川市立安房東中学校	鴨南町立鋸南中学校
勝浦市立勝浦中学校	いすみ市立国吉中学校	鴨川市立安房東中学校	勝浦市立勝浦中学校
いすみ市立国吉中学校	三育学院中等教育学校	鴨川市立安房東中学校	いすみ市立国吉中学校
三育学院中等教育学校	茂原市立富士見中学校	鴨川市立安房東中学校	三育学院中等教育学校
茂原市立富士見中学校	東金市立西中学校	鴨川市立安房東中学校	茂原市立富士見中学校
東金市立西中学校	大網白里市立增穂中学校	鴨川市立安房東中学校	東金市立西中学校
大網白里市立增穂中学校	十九里町立十九里中学校	鴨川市立安房東中学校	大網白里市立增穂中学校
十九里町立十九里中学校		鴨川市立安房東中学校	十九里町立十九里中学校

市小安小高寺齋石森西小池能山菅二前公簷藤瀬山豊大遠井吉  
原島田倉崎田藤塚 岡林田城藤井宮田文 村戸口増石藤上田  
大夕莉沙日新百寛結夕瑠有洸聖瑠亞友一幸 鳩莉賢梨将幸こ  
之合 太こ  
瑠奈愛羅葵介花翔和夏華佑郎仁杏海樹花奈鳩介央世花英輔ろ

千葉県知事  
千葉県保護司会連合会長  
千葉県更生保護助成協会理事長  
千葉県更生保護女性連盟会長  
千葉県BBS連盟会長  
千葉保護観察所長

審查委員

千葉県教育研究会国語教育部会長  
千葉市立草野中学校長

## 審查委員

山武市立成東中学校  
横芝光町立横芝中学校  
匝瑳市立八日市場第二中学校  
旭市立第二中学校  
八街市立八街南中学校  
荣町立荣中学校  
四街道市立千代田中学校  
印西市立原山中学校  
白井市立桜台中学校

二二二二二二二二  
年年年年年年年年

田清藤吉戸熊  
中澤代田松谷  
大拓よ 篤俊  
輔治子平司人

柴崎淳

秋星須橋古佐大鈴相  
田 藤本川藤木木葉  
莉柑蒼真葵多柚心琉  
種那直佳登東佳望風



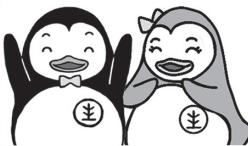
# “社会を明るくする運動” 作文コンテスト

あなたの考え方や経験が  
犯罪や非行のない明るい社会を作ります

たくさんの  
応募を  
まってるよ～

## 作文にはどんなことを書けばいいの？

家族・家庭、学校、地域、社会でのできごとなどを通して、犯罪や非行などについて自分が考えたことや感じたこと、体験したことを作文にしてみましょう。



## これまでの入賞作品には次のようなものがあります。

ある朝見たニュースがきっかけとなり、どうすれば犯罪のない社会をつくることができるのかについて考えたもの

保護司さんへのインタビューを通して、生きづらさとは何かについて考えたもの

加害者家族がSNS上で誹謗中傷されていることに対して疑問を持ち、本当の正義とは何か考えたもの

学校のあいさつ運動を通して、犯罪や非行のない社会を作るためにはあいさつが大切だという気持ちをつづったもの

作文コンテスト



特設ページ

“社会を明るくする

運動”ウェブサイト



# 4月17日は 国際更生保護 ボランティアの日

The International Day for Community Volunteers Supporting Offender Reintegration

世界に届け 地域のチカラ



安全・安心な地域づくりのため、  
罪を償い再出発しようとしている人たちに寄り添い、  
見守る“更生保護”という活動があります。  
更生保護は、私たちの住む町で、そして世界で、  
地域のボランティアによって支えられています。

更生保護ボランティア



## “社会を明るくする運動”に取り組む 更生保護ボランティア

### 更生保護とは

犯罪や非行をした人を社会の中で適切に処遇し、地域社会の理解・協力を得て、これらの人々が自立し改善更生することを助けることにより、安全安心な地域社会をつくることを目指す活動です。

更生保護は、地域社会で暮らす更生保護ボランティアの方々の御協力を得て行われています。

### 保護司

犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。民間人としての柔軟性と地域の実情に通じているという特性を生かし、保護観察官と協働して保護観察に当たるほか、犯罪や非行をした人が刑事施設や少年院から地域社会に戻ってきたとき、スムーズに社会復帰を果たすことができるよう、釈放後の住居や就

業先を調整したり、地方公共団体と連携して犯罪予防活動を行ったりしています。  
現在は、全国で約四七〇〇〇人の保護司が活躍されています。

### 更生保護法人

更生保護事業法に基づき、法務大臣の認可を受けて、更生保護事業を営む民間団体です。犯罪や非行をした人の中には、生活の拠点となる住居が無い人もいるため、これらの人々に宿泊場所を提供し、自立支援や生活の相談支援などを行っています。

宿泊場所となる更生保護施設は、全国に一〇二施設あります。

### 更生保護女性会

地域社会の犯罪や非行を未然に防ぐための啓発活動を行なうとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪や非行をした人の改善更生に協力するボランティア団体です。

地域の非行問題等について話しあうミニ集会や子育て支援活動など、様々な活動を実施しています。

現在は、全国で約一二二万人の更生保護女性会員が活躍されています。

## BBS会

(Big Brothers and Sisters Movementの略)

様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として接しながら、少年が自分自身で問題を解決したり、健全に成長していくのを支援したりするとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体です。これらの少年の話し相手になったり、勉強を教えたりする活動をしています。

現在は、全国で約四、五〇〇人のBBS会員が活躍されています。

## 協力雇用主

犯罪や非行をした人たちの自立や社会復帰に協力することを目的として、そのような人たちを雇用し、又は雇っています。

用しようとする民間の事業主の方々です。

現在は、全国で約一五、〇〇〇社に協力雇用主として登録いただいています。

## Instagram

千葉県内で行われた「社会を明るくする運動」について、千葉県推進委員会インスタグラムで紹介しています。二次元コードからアクセスできますので、ぜひ御覧ください。



ぴーなつホゴちゃん・  
サラちゃんが目印です！



Instagram  
アカウントQRコード

## 事務局編集後記

本年もたくさんの作品を応募いただき、ありがとうございました。

作文では、人の優しさに触れたり、逆に人の良くない行いに触れたりした経験をもとに、明るい社会とはどのようなものか、自分に何ができるのか、様々な考えが書かれていきました。また、「人との繋がり」の大切さについて書かれていた作品も数多くありました。犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な明るい地域社会を築くことを目標とする“社会を明るくする運動”は、まさに「人との繋がり」を大切にしている運動です。

皆さんが“社会を明るくする運動”作文コンテストを通じて考えたことを、ぜひ日常生活の中で実践してください。私たちも皆さんの手本となれるよう頑張ります！

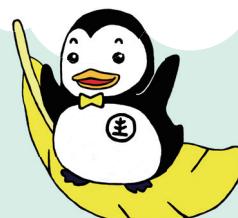
第75回 “社会を明るくする運動”  
**千葉県作文コンテスト入賞作文集**  
“社会を明るくする運動” 千葉県推進委員会事務局  
千葉市中央区春日2-14-10  
千葉保護観察所内  
令和7年12月発行



## 犯罪や非行のない 明るい社会を築こう！

“社会を明るくする運動”とは、全ての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの改善更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

社会を明るくする運動では、  
“幸福(しあわせ)の黄色い羽根”  
をシンボルマークにしています



更生ペンギンの ホゴちゃん